

ターン
3

地域医療の旗手となる
薬剤師にCLOSE UP!

「在宅医療＝地域医療＝かかりつけ薬剤師」 の公式を実現しつつある日本在宅薬学会

2008年設立された若い学会ながらCPC認証^(※)を受け、超高齢社会での新しい地域医療システムの構築に寄与することを通じた社会貢献を目的とする。主な活動は、地域医療の要となる在宅業務に関する薬剤師教育や環境整備など。



狭間研至理事長

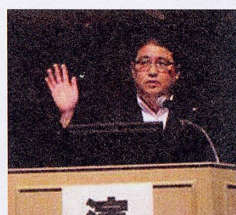
※CPC認証 薬剤師認定制度認証機構の略。薬剤師の生涯学習の研修・認定制度に対して行われるもので、薬剤師が時代に即した職責を果たすため必要な、質の高い制度であることを保証する。

患者さんの尊厳ある

療養生活実現のために

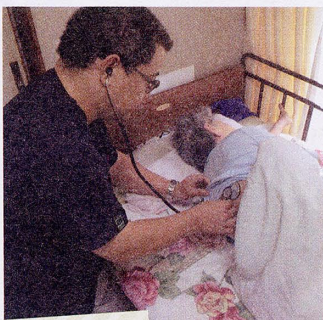
変わりつつある地域医療の現場で薬剤師が何を行うべきか——
地域医療の要といえる在宅業務の学びの場として、
薬学界のみならず他職種からも注目を浴びる「日本在宅薬学会」。

今年8月に開催された第8回学術大会から、
積極的に在宅業務を実践している薬剤師のひとり、
奈良 健さんをご紹介します。



奈良 健 / 株式会社サン薬局(横浜) 在宅薬物治療支援部部长。帝京大学薬学部卒業。済生会神奈川県病院薬剤部を経て、株式会社サン薬局へ入社。現在、在宅薬物治療支援部長、日本在宅薬学会バイタルサイン講習会エヴァンジェリスト、神奈川県薬剤師がん疼痛緩和医療研究会世話人。

患者宅にて聴診中。「薬剤師が『医療人の視点で』居宅で過ごす患者さんを見守り、薬物治療の効果や副作用の有無を確認するために、バイタルサインを採れる体制を作っていく事はとても重要で、最新情報を必要に応じて医師や看護師に共有する事は必須。この理念は在宅現場だけでなく、カウンターでの外来現場でも活かされるべきと考えています」



「僕たちは、地域医療という海であなたがたが乗りたいと思える『船』を作っています。医師という羅針盤のもと、他職種と手を取り合い薬ではないが、やりがいにも満ちた航海をともしましょう。」

～シンポジウムの口演から～
奈良さんは本大会で、「私たち地域医療者が目指すべきは、へ病棟で行われていたことを単に再現することではありません」と訴えました。病院という非日常から日常、つまり日々の暮らしに戻ってきた患者さんの療養を、在宅でどうやって続けていくかが地域医療。奈良さんは「在宅での尊厳ある療養生活とは、患者

さんの大切な日常ができるかぎり保たれるよう支援すること。これが地域医療にかかわるスタッフのミッション」と力強く述べました。

そして、このためには「処方箋が出た時だけ薬を渡して完結する『点』の業務」ではなく、「患者さんの経過に着目し薬物治療の対応を考える『線』の業務」が重要と提言しました。

——奈良 健さん

薬学生の皆さんへ

薬局は、地域医療という航海に出る船のようなものです。先に現場にいる先輩として、学生のみなさんが「ちゃんと自分が乗れる船だ」と感じられる薬局でありたいと願っています。実務実習では現場にいやというほど行ってもらい、薬物乱用授業や学校薬剤師など様々な業務にチャレンジしてもらっています。一人ひとりからハングリーさと真剣さを感じるたび、いっそう応援したくなります!

奈良さんとシンポジウムを開催した地域医療をリードする薬剤師たち



有輪 泉さん

有限会社ファーマティカだけの薬局府中店管理薬剤師。帝京大学薬学部卒業、現在ファーマティカだけの薬局。府中市学校薬剤師、同市薬剤師会在宅推進委員会委員長なども兼任している。



田崎恵玲奈さん

さかい薬局グループ統括本部長。福岡大学薬学部卒業。MRとして勤務後、厚生省薬剤師実務実習生に。福岡市薬剤師会薬局を経て、さかい薬局グループへ入社。次世代型保険薬局を目指して奮闘中。



鏑城正則さん

株式会社アポロン、アポロン薬局代表取締役。明治薬科大学薬学部卒業。株式会社アポロン代表取締役、日本在宅薬学会理事。